

東京大学

文系 Part 2

かね こ ゆう たろう
金子 侑太郎さん（文Ⅱ・海城）

さ と う ひかる
佐藤 光さん（文Ⅰ・海城）

つなわき な お
綱脇 奈保さん（文Ⅲ・桜蔭）

やまもと あらた
山本 新さん（文Ⅰ・麻布）

さ と う そら
佐藤 気さん（文Ⅱ・海城）

そえじま こうすけ
副島 紘介さん（文Ⅲ・海城）

まつもと い おり
松本 伊織さん（文Ⅱ・早稲田）

グノの英語は、どのクラスでも授業の質が高いので、下のクラスにいても気にしなくて大丈夫です。もちろん、クラス分けテストで本気を出して上のクラスに上がれば素晴らしいことですから、テストを1つの目標にして勉強するのもいいと思います。

山本 新さん（文Ⅰ・麻布）

目次

- 東大を志望した動機…………… P8
- 入塾のきっかけ…………… P9
- グノーブルの英語…………… P10
- 英語が伸びた時期…………… P11
- グノーブルの数学…………… P12
- グノーブルの国語…………… P12
- グノーブルの先生…………… P13
- グノーブルの環境…………… P14
- 後輩へのアドバイス…………… P14

※●は、このPDFフルバージョンのみの掲載項目

東大を志望した動機

綱脇：周りにも東大を目指す雰囲気があって、中学生の頃から東大が気になっていましたが、第一志望にしようと思ったのは高校に入ってからです。模試でも志望校の欄に「東大」と書き始めました。

副島：僕も中学の頃から「東大に行きたい」とは思っていました。せっかく中高一貫の6年間で勉強できるのだから、トップを目指してみたくなったんです。もちろん、周りの優秀な人たちの影響もありました。

金子：僕も、東大志望の頭の良い友人たちが周りに多くて影響を受けました。東大志望を決めて、模試の志望校欄に「東大」と書くようになったのは高1の終わりくらいでした。

山本：僕も、高1の時、周りの優秀な人たちが東大に行く空気になっていたの、それに流された感じです。

佐藤（気）：僕は中学受験で早稲田の附属校を目指すつもりでしたが、塾の先生に「進学校を目指したらどう？」と言われて海城に受験校を変更しました。海城に合格した後は、「進学校に入学した以上、東大を目指そう！」と中1から意識していました。ただ、中学生の時は漠然と「東大に行きたい」と思っただけです。

松本：僕の場合、東大を第一志望にしたのは高2の夏です。中3の頃から、自分が将来何をしたいかが決まっていなくて、いろいろなことを勉強したいと思っていました。学問や職業について自分なりに調べたこともありましたが、それでも決められなかったんです。そんな僕にとって、大学で2年間勉強してから学部を決められる東大の進振り制度が魅力的に感じられました。「学力的に東大を目指せるのか？」と悩んでいた時期もありましたが、高2の頃から「手が届きそうだ」という実感が出てきて、「東大を受験したい！」という意志が固まりました。

佐藤（光）：僕も自分の将来を決められなかったの、進振りのある東大を受験することにしました。高校進学の際に目標を設定したのですが、より高い目標として「東大合格を目指して勉学に励もう」



金子 侑太郎さん（文Ⅱ・海城）

と思ったのもあります。文科一類にしたのは進振りに有利だと聞いていたからで、法律に興味はありますが、本格的に法律を勉強するかどうかは進振りの時に考えます。

網脇：私も進路が決まっていなかったので、進振りはありがたいと思っています。教養学部で2年間いろいろな授業を受けてみて、それからどの学部に進学するかを決めるつもりです。他大学だと学部まで決めて受験するので、入学後に「自分はこの学部にあわない」と思っても、4年間そこで勉強し続けなければなりません。東大はそういう意味で他大学とは違って魅力的です。

松本：学部を決めた上で大学に入れば、最初から専門的な勉強にも触れられます。それはそれで楽しいでしょう。でも、どんな勉強にも楽しいところがあるので、その楽しさを多く体験した後の方が、より良い進路を選べるのではないのでしょうか。

佐藤(気)：僕も将来何をやりたいかが確定していないので、進振り制度を知ってさらに東大に惹かれました。今のところは漠然と「経済系に進みたい」と思っていますが、どうしても経済がやりたいわけでもなくて、大学で2年間教養を学んでから学部を決められるのは魅力です。

金子：僕も佐藤(気)君と同じく経済系を考えていますが、法学にも興味があるので、進振り制度で学部を決めるつもりです。

山本：僕は皆さんと違って法学部を目指すつもりでいます。ただ、大学で新しい出会いがあったり、新しい価値観に触れたりするかもしれないので、猶予期間があるのは良いことだと思っています。

副島：僕は「東大に進学したい」という目標を決めてから、何をやりたいかを考えました。そして、教養学部の国際関係学を学びたいという結論に達したので、それをモチベーションにして受験勉強をがんばりました。

入塾のきっかけ

網脇：中1の時からグノーブルの名前は知っていましたが、とりあえず他塾に通っていました。でも、中3の時、たまたま手にしたグノのパンフレットに心惹かれて、まずは春期講習に参加してみました。グノは、それまでの塾とは全然違っていました。授業の密度が濃いので新しい知識をたくさん得られるし、しかも楽しいので無理なくついていけると、「ここで最後まで学び続ければ行きたい大学に行ける」と感じました。英数で入塾して、後から国語も受講しました。

山本：高1の春に英語の塾を探していて、他の予備校の授業を受けましたが、とても微妙でした。そんな時、グノの説明会に参加したら、英単語の語源の話がとても面白くて、「ここで勉強したい!」と思いました。

佐藤(気)：中3の終わり頃から「そろそろ塾に行って学力を伸ばしたい」と思って、大手予備校に入りました。でもその授業は、予習した範囲の解説を聞くという受動的な内容でした。授業中に自分で考えないと眠くなったり退屈になったりするので、授業内演習を積極的に取り入れている塾に転塾したいと思うようになりました。それで、すでにグノに通っている友人から話を聞いて、グノへの入塾を決めました。

松本：僕の場合、高1の時に「英語の学力が足りない」と感じ始め、高2の春に「英語だけでも塾に入ろう」と思って塾を探し始めました。たまたま友達の何人かがグノの英語に通っていたので、それで説明会に参加してみたんです。「グノの英語は面白い!」と思って入室テストを受けました。それまでの英語は「暗記するだけ」というイメージで、どうも好きになれませんでした。一方グノは、単語は語源から解説されるし、語順のままの解釈を重んじていて、耳や口も積極的に鍛えたりと、英語の本質が感じられる授業でした。授業の進め方も受け身ではなくて能動的に勉強できる環境でとても魅力的でした。

佐藤(光)：高2の春に、高校の授業だけで英語を勉強することに限界を感じていました。他塾も検討はしましたが、大手の塾では一人ひとりを見てもらえないだろうし、受験に特化している雰囲気のある塾も嫌だったので、候補から外しました。英語の評判が良いグノの講習に参加してみて、初回からすっかり気に入りました。

金子：僕は、高1の途中から「そろそろ塾行かないか」と思って、副島君と話し合っ「一緒に同じ塾に入ろう」という流れになりました。いろいろ調べているうちにグノの英語の評判が良いことがわかり、それがきっかけで入塾を決めました。

副島：友達のテキストを見せてもらって、どの塾にするかを金子君と話し合いました。それで受けたのがグノの高1の冬期講習でした。グノの授業は目からウロコが落ちるような経験に満ちていました。知らないことがたくさんあって驚き、その上、解説が明快で面白くてそれも驚きでした。

佐藤(光)：塾の授業の雰囲気や進め方を僕も友達に聞きました。僕たちの学年は海城にグノ生が多かったので、判断材料には困りませんでした。



佐藤 気さん (文Ⅱ・海城)



佐藤 光さん (文Ⅰ・海城)

松本：僕の学校も、様々な塾に通っている友達がいたので、話を聞く機会は多かったです。「どういう授業を受けたいか？」と考えながら塾を選んでいたので、友達の話が一番大きな情報源になりました。僕は「授業中に頭を使いたい」というのがあって、予習重視よりも授業内の演習重視のグノに魅力を感じました。

山本：入塾時には友達の話聞いていませんが、僕が入ったのは基礎クラスだったので、入塾してから、上のクラスにいた優秀な同級生に復習のやり方や上のクラスの教材のこと、授業の様子などをいろいろ聞いていました。

網脇：私も友達から話を聞いたわけではありません。中3までの友達は全員他塾だったからです。グノに通うようになってから、私が友達に「グノいいよ」と勧めていました。

グノーブルの英語

網脇：グノの英語では、授業が始まってからしばらく演習をしますが、それが他塾にはない特徴です。他塾は予習前提ですが、それだと自分でいろいろ調べられるので、自分がどこまでわかっていて、どこからわかっていないのかが曖昧になります。一方、授業中の演習だと調べられないので、自分がどこがわからないのかが明確になります。

グノはどのクラスでも、授業開始と同時に教室の空気が引き締まるのが心地良かったです。授業が始まると同時に全力で英文に向き合える感覚は楽しかったです。演習したものの一部はすぐに添削してもらえ、演習が終わるとすぐに解説が始まるので学習効果も上がりました。

佐藤(気)：僕も、そもそも予習して授業を聞くというスタイルが嫌いでした。一人で予習していてもなかなか真剣にはなれません。一方、授業内演習があってその直後に先生の解説を聞くというグノのスタイルは大好きでした。毎週授業を受けた後に復習して、その次の週の演習や要約で良い結果を目指すというサイクルが、モチベーションを保つのに最適だったと思います。

佐藤(光)：授業中に当てられるのもグノの特徴です。そのお陰で、長時間の授業でも、ずっと緊張感を持って受けられました。

松本：指名に加えて授業中に添削してもらえたので、先生の目が生徒一人ひとりに行き届いていることを実感できました。先生が生徒一人ひとりとつながっているのがグノの英語です。

副島：授業中に添削していただいて、コメント付きで答案が返ってくるので、先生と対話している感覚があって楽しかったです。

網脇：毎回の添削も含めて、先生が私たち一人ひとりのことをよく把握されていたので、解説にも無駄がありませんでした。解説のスピードも速かったので、いつも頭がフル回転する気持ち良さを感じていました。

山本：クラス分けテストが年に3回ぐらいあったのも良かったです。勉強の成果が測れる機会があると、それが毎回の授業の復習へのモチベーションになります。

それにしても、グノのクラス分けテストは45分という短時間で問題数も多かったので大変でした(笑)。毎回、センター試験並みの緊張感がありました。

金子：教材の充実もグノの特長です。授業には先生がいつも新鮮な英文を用意してくださるので、毎回どんな教材と出会うか楽しみでした。復習用の教材のGSL*も充実しており、毎週新しいものをサイトからダウンロードできるようになっていました。その教材はネイティブスピーカーにとってナチュラルなスピードなので、とにかく速いんです。僕は最初、GSLを聞いても何を言っているかわかりませんでした。でも、耳が慣れてくると聞き取れるようになって、英語の力も伸びました。

* GSL (Gnoble Sound Laboratory)：中1から高3までの6学年すべてにオリジナルの英語音声教材を用意しています。

佐藤(気)：僕も復習でGSLを活用していました。耳を慣らすのには本当に良い教材でした。それから、音読もグノの英語の特長です。授業を受けた後は英文の深いところまで意味がわかっているの、筆者の伝えたいところや英文の構造を意識しながら音読しました。音読を続けていたら、初見の英文でも大事なところを見抜けるようになりました。音読はグノのすごさの要だと思っています。

副島：他塾でも音読は推奨されますが、ただ生徒の自主性にまかされているだけだと思います。グノだと、音読のための教材がそろっていて、方法論も確立されています。

音読の中心になる教材は要約の英文です。適度に難しくても深みもある英文ですが、僕たちの答案を一枚一枚先生が添削してくださって、直後に解説をしてくださいます。その過程を経て、100%理解できている状態で授業後に音読をします。その英文の音声版がGSLですが、ネイティブの発音、イントネーション、呼吸の取り方も参考になりました。

音読の効果は絶大でした。僕は「音読の効果を高めたい」と思って、100%まで理解できていない英文の場合は、必ず先生に質問するようにしていました。100%理解できていると音読が生き生きと



副島 紘介さん (文Ⅲ・海城)



網脇 奈保さん (文Ⅲ・桜蔭)

したものになって、筆者の主張や論理の展開を意識できるようになりましたし、英文法や単語の用法など細かなことも頭に残りやすくなりました。

松本：グノの音読は、授業で理解した英文を何度も読み込むところに特徴があります。筆者の意図を理解した後だと、プレゼンのように活き活きと読むことができます。授業で習ったことを言葉に出しながら再検証して、記憶に定着させて行う音読はとても有効です。しかも、毎回の英文は読むのにちょうど良い長さなので、無理なく続けられました。

佐藤(光)：僕も、英文を100%理解しながら音読するようにしていました。毎日音読していましたが、かける時間は30分程度です。それでも、授業内容の理解が深まりましたし、英語力も格段に上がりました。

山本：他塾では、音読は副次的な方法としてしか紹介されていません。グノでは音読がメインの復習方法として推奨されています。グノを信じて音読を継続しているうちに自然に英語力がつきます。本当に魔法のように力がついていきます。僕の場合、東大のリスニング対策をし始めたのは最後の最後でしたが、それでも高2から音読していたので、すぐに効果が表れました。音読で得たものは英作文にも活かしました。

網脇：確かに音読はリスニング力も上げます。直前期は、毎日1時間くらい音読をしていたので、本番でもリスニングは大丈夫でした。

副島：グノの英語といえば、英単語の覚え方も特徴的です。単語の語源に立ち返って分解して覚えるという方法なので、1つの単語を軸に関連する他の単語も覚えられて一石二鳥どころか、時にはもっとすごい効果もありました。語源を踏まえ、実際の英文の中での使われ方も踏まえて単語を捉えていくというステップを踏むことで、楽しみながら語彙を増やしていけました。市販の単語帳は結局1回も使いませんでした。周りの人たちが単語帳を使っているのを見て少しだけ不安に感じたこともありましたが、グノを信じていたので、グノのやり方を最後まで貫きました。

佐藤(気)：僕もグノのやり方で楽しく成績が上がっていたので、一生懸命、単語帳を覚えている人たちを見て、「どうして単語帳をやっているのかな？」と逆に疑問でした。グノのやり方で伸びるという確信がありましたし、単語帳を覚える時間があるなら英文を読んだ方がいいと思っていました。

英語が伸びた時期

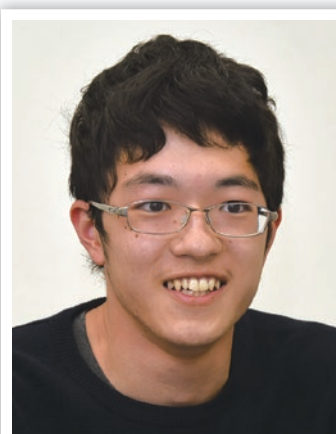
網脇：グノには周りに優秀な人がたくさんいるので、自分の英語力が伸びているとはあまり実感していませんでした。ただ、要約で先生に「優秀」と書いていただいたことがあって、そういう時はとてもうれしかったのを覚えています。要約は総合力がないと高得点はとれないと普段から先生に言われていたからです。英文の内容をしっかりと読めないと筆者の主張は読み取れませんし、知識や教養が自分に備わっていないと表面的な読み方に終わってしまいます。読み取れたことを表現できれば答案としてまとめることができません。毎回やっていた要約演習のお陰で、知らず知らずのうちに力がついていたのかもしれない。

金子：僕の場合も、自分の英語の力が伸びた時期はと問われても「いつなんだろう？」という疑問しか湧きません(笑)。模試でも毎回解き終わりませんでしたし……。でも、グノの勉強はコツコツやり続けていて、毎日英語に触れるようにしていました。そうしたら、受験本番では全部解き終わったんです。この時、読むスピードが上がっていたことを初めて実感しました。

松本：僕はもともと英語が全然できなくて、苦手意識もありました。グノの入室テストでも1度落ちてしまったくらいです。落ちた時は「こんなことはあるはずがない」と思いましたが、冷静に考えて自分の英語力の低さを自覚しました。「他塾ではなくグノの授業を受けたい」という思いもあったので、入室テストに再チャレンジして、2回目で何とか入塾できました。今振り返ってみれば、それまでは、英文を読む機会があまりにも少なかったのです。グノに入って、面白い英文に大量に触れることができたし、復習のやり方も明確にわかりましたから、どんどん英語を読めるようになりました。

山本：僕の場合、高2の最後の時期に文法を復習して伸びました。それまでは関係詞なども適当に考えていて、英文の構造を見抜けないこともあったし、時制の感覚も適当だったんです。でも、和文英訳と英文和訳を交互に細かなことまで意識してやる練習をしているうちに、英語のセンスが磨かれたようで、段々と英語の伸びを実感できるまでになりました。

佐藤(気)：僕は、小学校低学年から英会話教室に通っていて、人より早く英語に触れていたもので、英語が好きで得意だとも思っていました。でも、中3になってグノの冬期講習を受けた時、「自分はまだまだだ」と自覚させられたんです。周りのレベルも教材のレベルも高かったからです。そこから、「音読するように」という先生のアドバイスに従って音読に取り組むようになって、すぐにグッと伸びました。その後は停滞期もありましたが、高3の夏休みが終わったあたりから「英語を本気でがんばろ



松本 伊織さん (文Ⅱ・早稲田)



山本 新さん (文Ⅰ・麻布)

う」と意識を変えたら、秋にかけてまた大きく伸びました。

佐藤(光)：僕も、英語力が伸びた時期が2回あります。1回目は、グノに入って敗北を味わった時です(笑)。やはり教材のレベルと周りのレベルに圧倒されました。この時、「基礎から学ばないといけない」と思って単語帳を使って単語を覚えたら、文章がわかるようになって伸びました。でも、高3になって要約が始まると、点数が毎回低くて伸び悩みました。その時期から音読を熱心にやるようになったら段々点数も上がってきて、英文もスラスラ読めるようになりました。これが2回目の伸びでした。この時はもう単語帳を使うのをやめていた時期でしたが、むしろ使わなかったからうまく英語力を伸ばせたような気がします。

副島：僕も2段階で伸びました。高1で入室テストを受けて入ったのは基礎クラスでした。「上には上がいる」と思い知らされました。授業で教わった文法をがんばって理解して身につけていき、そこからクラスが上がっていきました。次に伸びを実感したのは、高3の時に「英文を100%理解して音読しよう」と意識が変わってからです。以前より速く英文を読めるようになっただけでなく、内容も深く理解できるようになりました。

グノーブルの数学

佐藤(気)：僕は高2までは別の塾で数学を受講していましたが、新高3の冬期講習からグノに移りました。友人が「グノは数学もすごい」と絶賛していたからです。その時期、僕は部活がいち段落して「本格的に受験勉強を始めよう」と思っていたこともあり、一番不安だった数学に時間をかけるつもりでグノを選びました。

友人が「授業についていくのは最初はきついけれど、正しい方法で数学の成績を伸ばせる」と言っていた通り、授業の効果は抜群でした。前期は、体系的な学習をして、本質部分をながめるインストールの期間で、後期は、インストールしたことを実践で使いこなす期間でした。授業の復習をしっかりやっていたら、夏休み頃に「伸びてきた」という実感がありました。後期のテスト演習は難しくて、予習と復習をこなすのも大変でした。でも、グノを信じてついていったら、入試本番ではかなり良い結果を得られました。

綱脇：中3から高1にかけては、数学を一から教えていただけて、とにかく授業がとても楽しかったのを覚えています。どんどん問題を解きながら計算力もついていきました。

高2からは、ただ楽しくやってきた数学を、自分で捉え直していくという授業になりました。数学を俯瞰して行動原理を自覚化していくという、グノの数学独自の取り組みなのですが、この作業が最初は大変でした。高2の間は先生が思う100%には到達できませんでした。でも、高3では、高2で一度習っていたこともあって、方針がわかった状態で授業を受けられたので少し楽になりました。とにかく「できるようになろう」「先生が求めるものに近づこう」とがんばっていたら、模試の成績が上がり、「このままグノを信じてついていけば大丈夫」だと思いました。

佐藤(気)：グノの数学の特徴としてはセルフチェックシートが挙げられます。テスト演習で解けなかった問題の敗因を分析して書くので、「次に同じような問題が出たらこうしよう」と自分の頭で考えるきっかけになります。学んだことについて、文章化することでさらに理解を深められたのも良かったです。先生が一人ひとりのシートを見てコメントをくださるのですが、いつも参考になることばかりでした。

綱脇：セルフチェックシートを毎週提出するので、私が何を苦手としてどういう思考に陥りがちなのかを先生も把握してくださいます。だから、質問に行くと、「確かに綱脇さんの考え方だとこうなるね」と的確なアドバイスをしてくださいます。自分で後で見直す時にも自分の傾向を振り返ることができたので、セルフチェックシートはとても役立ちました。

グノーブルの国語

綱脇：私は古文と、東大国語の現代文も受講しました。古文常識や古文単語を雑談を交えながら解説してくださったことで、知識を効果的に増やせました。それから、毎週の授業でコンスタントに古文を読み続けられたのも良かったです。お陰で、品詞分解を考えなくても現代文を読むようにスラスラ読めるようになりました。

現代文の授業でまず良かったのは、先生が、必ず全体を読んでから解説をされたので、私も全体の構成を考えながら読むくせがついたことです。解答例が自分でも書けるかもしれないと思うようなものだったのもとても参考になりました。少人数クラスの時には、先生がうまくアシストしてくださって、全員が自力で正しく考えて答えを導き出せるように待ってくださったので、とても積極的な



金子 侑太郎さん (文Ⅱ・海城)



佐藤 気さん (文Ⅱ・海城)

姿勢になれました。

それから、直前期の添削がとても丁寧で感動していました。

山本：僕も東大国語をとっていましたが、古文漢文を中心に時々現代文を受講しました。授業は基本的にはとても楽しいのですが、特に古文漢文では頻繁に当たるので、授業に積極的に参加していないと大変です。他の人たちにとってあたりまえの事柄がわからないと、「ええっ!？」という空気になってしまいます。僕は全般的に古文漢文を舐めているところがあったのですが、グノの授業のお陰で、主体的に文法や単語を勉強するようになりました。

佐藤(光)：学校で受けていた国語の授業とは違って、現代文も古文も、先生がご自身の体験に絡めた面白い話と話をしてくださったので、とても理解しやすかったです。自分が問題を解く際にも、「先生が話してくださったような体験がないかな？」と考えながら解く習慣が身について読解力も上がりました。

副島：先生は一見難解に思える内容や、現代生活からは縁遠く思える事柄でも、たくみに自分の話やたとえ話をういて解説してくださったので、授業が本当に面白くて、毎週とても楽しみにしていました。古文にまつわる豆知識なども、面白おかしく話してくださるので、理解しやすいし実力アップにもつながりました。

もちろん、単に面白かっただけではなく、「どうしてこういう答えになったのか？」という根拠やプロセスをいつも明快にしてくださるので、「自分でこうやって考えて解いたらいいんだな」ということがわかりました。

佐藤(気)：僕も高1で古文を受講しましたが、身近なたとえ話や経験談で解説してもらえたお陰で古文漢文の世界に入り込めるようになりました。

東大の現代文は、「どういうことか？」とか「なぜ？」とか、シンプルだけれどやや戸惑う問題ばかりです。僕は最初、何を書けばいいのかわかりませんでした。でも、グノの授業を受けて、現代文ならば対比や助詞のニュアンスに着目して書くといったプロセスがわかり、自分でも何とか答案を作成できるようになりました。

金子：皆さんの言う通り、グノの国語は、現代文でも古文漢文でもイメージしやすい例やエピソードを盛り込んでくださり、解説がとてもわかりやすかったのが印象的です。それから、直前期には過去問の答案を丁寧に添削していただき、どこを直したらいいかを具体的に明示していただけたので助かりました。



佐藤 光さん (文Ⅰ・海城)



副島 紘介さん (文Ⅲ・海城)

グノーブルの先生

佐藤(気)：グノは、他塾と違って、毎回の添削や授業中のやりとりなどのお陰で先生と生徒の距離が近いのが特長です。先生が生徒一人ひとりを見てくださっていると強く感じられるし、先生方を心から尊敬できたので、「先生に認められるためにがんばろう」とモチベーションが上がりました。

山本：高2で初めて英語の一番上のクラスに上がった時、僕は少し怖かったです。でも、最上位担当の先生も早々に僕の名前を覚えてくださったし、クラスが変わったばかりの生徒にもわかりやすく復習方法を解説してくださったりして、すぐになじめました。先生との距離の近さがあったからがんばってついていけましたし、勉強が軌道に乗ったのだと思います。

金子：授業内の短い時間で丁寧に添削してくださったり、質問にも親身に対応してくださったりしたので、先生をいつも身近に感じていました。

松本：僕も、先生との距離の近さを感じていました。先生方は最初の授業で名前を覚えてくださいますし、授業中の話し方や僕たちに向き合ってください様子からも「生徒一人ひとりの学力を上げよう」という熱意が感じられました。そんな先生方の思いに応えることを目標に、少しでも成長しようと勉強に打ち込みました。メールで何度か先生に質問したこともありますが、内容も言葉遣いもとても丁寧に返信してくださったので、それを見てますます「がんばろう!」と思いました。

副島：グノーブルの先生方の熱意は他塾と比較になりません。授業中に目が合っただけで熱意を感じる授業で、そんな先生方の熱意に影響されて「がんばらなければならない」と奮起しました。僕も先生にメールで質問したことがあります。「こんな簡単なことを聞いてもいいのかな？」と不安でしたが、先生からの返信はとても丁寧で、わかりやすく応えてくださいました。通り一遍の答えではなく、かなりの長文の返信で、内容が役立ったのと同時にとてもうれしかったです。

綱脇：グノの先生はこちらに合わせて応えてくださいます。1を質問した時に、必要なら10まで説明してくださるので、とても熱意を感じていました。それに、先生が生徒一人ひとりの状況を的確に把握してくださっているので安心感があります。

それから、私は授業中にはできるだけ1列目か2列目に座り、先生のおっしゃることを細かくメモ

するようにしていました。勉強に役立つだけでなく、学問に向かう姿勢とか、生き方に関するところで学べたように思っています。

佐藤(光)：グノの先生方は、受験だけでなく、社会人になってからも役立つ英語力を鍛えてくださいました。そのような授業を受けられたことが一番良かった点だと思います。

松本：東大の英語を解くために英語を勉強するのではなく、そのレベルを超えた英文でも読めるように勉強するという雰囲気がグノの英語の授業にはありました。先生方のそういう方針のお陰で、言語としての英語を勉強していくんだということに意識が向かいました。

グノーブルの環境

金子：僕は運動部に入っていたので、急に部活の時間が延びてしまうこともよくありました。そういう時に柔軟に振替に応じていただけたので、忙しい時にもグノを続けられました。

松本：高3の英語の場合、週5日同じレベルの授業が設定してあったお陰で、いろいろな都合があっても、振替のシステムを活用して何とかできました。そういう時には、受付に電話したり直接行ったのですが、受付の方が本当に丁寧に應對してくださいました。

佐藤(気)：僕も、受付の方の丁寧な應對がとても印象に残っています。

佐藤(光)：他塾と比較しても、グノの受付が一番丁寧だと思います。

副島：他塾の受付の方は、ため口で上から目線の場合があります。でも、グノの受付の方は皆さん丁寧で、親身に対応してくださいます。無理なお願いをしても、「ちょっと調整してみます」と言って本当に調整して下さることが多くて、生徒思いでしたね。

網脇：受付の方の丁寧さもそうですが、警備員さんいつも挨拶をしてくださいました。グノ全体が丁寧で生徒思いだったと思います。



網脇 奈保さん (文Ⅲ・桜蔭)



松本 伊織さん (文Ⅱ・早稲田)

後輩へのアドバイス

網脇：私は、どんな些細なことでもわからないことは必ず質問しに行きました。グノの先生はどなたも素晴らしいので、親切に対応してください。

それから、グノの先生方のおっしゃることをまずは実践してみることが大切です。グノを信じて勉強を続ければ必ず夢は叶えられると思います。グノは、大学受験を最終目標にせず、勉強の楽しさも味わえて、人間としても成長させてくれる塾だと思います。

副島：網脇さんと同じで、グノの先生方を信じてほしいと思います。グノの英語の授業では、「単語帳は要らない」とか「過去問を何年も解く必要はない」とか、他塾とは方針がかなり違うことを言われます。だから、不安に思うことはあるでしょうが、それでもグノの先生のおっしゃることを信じるのが大切です。文章を100%理解して音読を繰り返すなど、グノのやり方を継続すれば、必ず自分の成長につながります。

佐藤(光)：英語は勉強を継続することが重要なので、毎日少しでも音読などに取り組んでください。教材はグノのものだけで十分です。他の教材に手を出してもいっぱいいっぱいになるだけですから、とにかくグノの教材だけをやり込みましょう。

金子：グノの教材を毎日、音読を中心に復習することは本当に大切です。グノの先生はよく、語学は楽器やスポーツの練習に似ているとおっしゃいますが、その通りで、グノで扱った教材を繰り返し読み込む練習は本当に底力をつけると思います。僕は、夏の模試で判定がよくありませんでした。でも、グノの教材で毎日英語に触れることは怠らずに続けていたら、ちゃんと本番では合格できるだけの点数がとれました。

山本：グノの英語は、どのクラスでも授業の質が高いので、下のクラスにいても気にしなくて大丈夫です。もちろん、クラス分けテストで本気を出して上のクラスに上がれば素晴らしいことですから、テストを1つの目標にして勉強するのもいいと思います。

松本：僕は、グノの授業を最後まで楽しみました。楽しみながら勉強の方が高3の最後まで走り抜けることができます。だから、後輩の皆さんにも、グノの授業を存分に楽しんでもらいたいです。

佐藤(気)：どこの塾も「本質をつかむ」ということを掲げていますが、実際に本質を教えてくれる塾はなかなかありません。その点、グノは、英語に限らず、数学も国語も本質的なことを教えてくださいます。そんなグノの先生方を信じて最後までがんばってください。



山本 新さん (文Ⅰ・麻布)